

学校経営

1 教育目標

21世紀に生きるたくましい人間の育成

【めざす子どもの姿】

西高津の子はがんばる子

- 自ら進んで学ぶ子ども 〈自学力〉
- 健康でたくましい子ども 〈健康〉
- 思いやりのある子ども 〈徳性〉
- 最後までやりぬく子ども 〈意志力〉

【教師の姿】

いつも笑顔で颯爽とした職員

- 常に公正である
- 常に自己実現をめざす
- 常によき評価をする
- 子どもと共に活動する

2 経営の方針

- ①「ちばっ子」の光り輝く未来のために、教職員としての自覚と使命感をもって取り組む。
- ②一人一人の子供の声，親の声，地域の声に耳を傾ける。
- ③子供，保護者，教師一人一人が主人公である学校創りをする。
- ④「信頼される学校をめざす」のではなく，保護者等との関わりの中で「信頼される学校をつくる」。
- ⑤適切な教育課程を編成・実施し，その達成状況を評価し改善する。
- ⑥「西高津小学校が心のふるさとである」という思いをもてる子供に育てる。そのために，楽しい学校，汗と涙と感動に満ちた学校，そして，美しい落ち着いた学校になるよう運営する。
- ⑦本校が学校経営の柱として進めてきた「体育」を核とした経営の基本理念を踏まえつつ，保護者，地域との連携を深め，新しい時代の要請に応えるよう運営する。
- ⑧危機管理マニュアルの見直しを行い，児童の生命の安全・事故防止に万全を期す。

3 経営の重点

①学校経営の充実

- ・一人一人の職員が自己の校務分掌を自覚し，各主任を中心に「有機的」な組織活動ができるように努める。
- ・教育活動全体の場で，基本的人権を尊重する態度の育成を図る。
- ・家庭や地域との連携を図り，開かれた学校経営に努める。
- ・良好な学校環境を常に維持すると共に，施設設備の整備と効果的な活用に努める。

②学級経営の充実

- ・教師が子供と向き合う時間を増やす。
- ・教師の個性を發揮し，創意と工夫のある学級経営を推進する。
- ・教師と子供，子供と子供が信頼し合える人間関係の確立に努める。
- ・いじめの早期発見・早期解消に努め，不登校やいじめのない学級経営を図る。

- ・個性伸長の教育と集団教育が一方に偏ることなく学級運営を進める。
- ③「確かな学力」を育む
 - ・子供自らが学び，思考し，表現する力を育成し意欲的な学習態度の育成に努める。
 - ・授業イメージをしっかりとつ，アクティブ・ラーニングの充実を図る。
 - ・I C T機器を有効に活用し，主体的，対話的で深い学びの実現を図る。
 - ・家庭での学習習慣を定着させる。
 - ・特別教室の利用推進を図る。
- ④「豊かな心」を育む
 - ・「道徳の時間」の授業公開を一層推進する。
 - ・県で作成した道徳教育映像教材の活用を図る。
 - ・学校の全教育活動の中で，道徳的実践力の育成に努める。
 - ・自他の「生命」を大切に作る心の育成に努める。
 - ・生徒指導について，家庭，地域，関係諸機関及び他校との連携を図る。
- ⑤「健やかな体」を育む
 - ・体力向上部会の組織を生かし，健康な身体と心の指導の充実に努める。
 - ・学校事故や交通事故の防止，不審者への対応に関する指導及び不審者情報の発信に努める。
 - ・災害時学校対応マニュアルを見直し，多様な想定を考え避難訓練を実施していく。
- ⑥研究・研修の推進
 - ・研究主題「とも（友・共）に学ぶ体育授業」～思考・判断力の高まりを求めて～の実践研究を進める。
 - ・各教科，道徳，英語活動等の授業研究や実技研修の充実を図る。
 - ・若手教員研修チームを中心に層別（初任・若年教員，中堅・幹部教員）研修の充実を図る。

4 本年度の努力点

- 「子供が中心となり活躍する学校をつくる」
- 「子供に勇気を与える」，「子供に共感する」，「子供と友に学習する」というスタンスに立つ。
- 「西高津小の自慢は，子供と教師と保護者である」と言えるように。
- 「一人の十歩より，みんなの一步」
- 「柔らかい」指導に心がける。
- 「授業改善」に向けて，評価を行う。
- 「働き方改革」を具現化する。

『子供に学力をつけるのは私たち教師であり、学校である』との決意のもと、言語活動を通して「自ら学び、思考し、表現する力」を育成する。そのために、「思考し、表現する力」を高める実践プログラム等を活用し、「分かる授業」の実践と家庭学習の定着を図る。

① 子供が中心となり活躍できる学校づくりの推進

② 基礎基本の確実な定着と新学習指導要領への対応

- ・西高津小学校の特色ある教育実践を基盤として、新学習指導要領の理念に基づいた教育を推進する。
- ・育成すべき資質・能力を明確にし、教員が共有して、教育課程の実施に努める。
- ・主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図るための評価のあり方を検討する。
- ・「読み、書き、計算」の確実な習得と、理解力や思考力、表現力等の重要な基礎となる国語力を各教科を通して育成する。
- ・読書活動の推進、読み聞かせリクエスト方式の定着を図る。
- ・体育研究を通して運動の系統性と重点化を図り、基礎体力の向上と技能の定着を図ると共に、子供同士の関わりを重視した研究を進める。
- ・「生きる」をテーマとした本校独自の健康教育の充実を図る。
- ・「全学年での英語活動 教育課程特例校」の指定を受け、全学年で年間活動計画に基づいた英語活動を実施し、その充実を図る。

③ 自ら学び、思考し、表現する力の育成 「確かな学力」

- ・問題解決的な学習や体験的な学習と共に、読書活動の推進を図ることによって言語感覚を養い、文章表現力も育成する。
- ・実践モデルプログラム等を活用し、「思考し、表現する力」を高める。

④ 豊かな人間性の基盤づくり 「豊かな心」

- ・他人を思いやる心や自律心、責任感を育成し、規範意識を高める。
- ・不登校やいじめのない楽しい学校、楽しい学級にする。
- ・すべての子どもを、すべての職員が目で見、連携協力する特別支援教育体制の充実を図る。(関係機関との連携の推進)
- ・道徳教育映像教材を活用し、要としての「道徳の時間」の一層の充実を図る。

⑤ 健康で安全な生活ができることが何よりも優先であることの徹底

- ・児童の生命の安全、事故防止に万全を期すための訓練や研修を実施する。

⑥ 本校独自の福祉・体験活動を基盤とした発達段階に応じたキャリア教育の推進

- ・「夢・仕事ぴったり体験」、「1/2成人式」などより充実したものにする。

⑦ 学校評価への積極的な取組 「地域とともに歩む学校づくり」

- ・ 職員一人一人が個人目標を明確に設定し、P（計画）－D（実施）－C（評価）－A（改善）のマネジメントサイクルにより、目標達成に努める。
- ・ 本校の教育活動を具体的な実践を通して、保護者・地域に説明し評価を受け、理解と協力を得るよう努める。

⑧地域学校協働活動の推進